

報道関係者各位

2021年5月31日

ジャパンケーブルキャスト株式会社

沖縄ケーブルネットワーク株式会社

## ACAS を利用する多チャンネル IP 放送ソリューションの実証実験を 沖縄ケーブルネットワークのFTTHフィールドで今夏より実証実施

ジャパンケーブルキャスト株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役会長兼社長CEO:藤原洋、以下「ケーブルキャスト」)、沖縄ケーブルネットワーク株式会社(本社:沖縄県那覇市、代表取締役社長:大熊茂隆、以下「OCN」)は、パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社(以下「パナソニック」)のソリューションを活用し、FTTH インフラに適した IP 放送のソリューションとして、業界標準の ACAS(※1)を利用する共同実証実験を OCN が今夏構築する FTTH エリアで実施することとしました。

今回実証検証する IP 放送ソリューションは、ケーブルキャストが 2019 年より提供開始した JC-HITS(ACAS)の信号を、OCN の局舎に設置するパナソニックの開発システムで IP 放送方式の信号に変換処理し、IPv6 マルチキャストで伝送される多チャンネル IP 放送と従来(RF)伝送の地上波・BS 放送等をパナソニックのセットトップボックス(以下「STB」)1 台でハイブリッド受信して評価するものとなります。

IP 放送と従来放送方式の RF 放送を1台でハイブリッド受信できる STB を採用することにより、視聴者(加入者)に対しては従来の STB と同じ操作性を提供できます。ケーブルテレビ事業者の視聴制御オペレーションも従来の JC-HITS サービスと同様であることから、既存サービスとの親和性が高い IP 放送ソリューションとなります。

FTTH で IPv6 マルチキャスト伝送できる環境を整えることにより、ケーブルテレビ事業者様にとって、ACAS 採用時の一方式として選択できるソリューションの確立を目指します。



ACAS を利用する IP 放送ソリューションの全体システム構成イメージ

この度の実証実験では、FTTH ネットワーク、宅内環境、ユーザービリティの 3 テーマでの検証を予定しております。具体的には、ネットワークのジッタ量と STB での受信耐性の確認や帯域割当／優先制御の必要性と効果の確認、宅内機器の選定と宅内回線品質の検証、NW・ch 切替選局動作などのユーザービリティ評価となります。

この実証実験における各種評価をもとに、実用化を判断し、サービス提供手法等についての検証・調整を進め、来年度のサービス化を目指します。

(\*1 4K・8K 衛星放送の開始にあわせて導入された視聴制御および著作権保護の方式です。ケーブルテレビの多チャンネル放送においても利用されます)

## ■ 実証実験の概要

### 1. 実施期間

2021 年 8 月中旬 ～ 2021 年末

### 2. 実施場所

OCN 那覇市の FTTH 構築エリアの一部施設及びサンプル個人宅

### 3. 各社の役割

#### ①ケーブルキャスト

全体プロジェクト管理、JC-HITS(ACAS)信号提供

#### ②OCN

FTTHインフラ提供、局内設備設置及び視聴環境の設置、オペレーション評価

#### ③パナソニック

IP 変換処理設備開発、ハイブリッド受信機開発

以 上

## ■ 本件に関する報道機関からのお問い合わせ先

ジャパンケーブルキャスト株式会社 ケーブルテレビ営業部

TEL:03-6910-2903

E-mail: pfccontact@cablecast.co.jp

沖縄ケーブルネットワーク株式会社 総務部

TEL:098-863-1115

E-mail: catv@nirai.ne.jp